

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1468
施設名	おおつかほうゆう保育園
施設所在地	東京都豊島区北大塚1-21-13
法人名	社会福祉法人 豊友会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「世界を知ろう ～国旗～」

<テーマの設定理由>

昨年度の活動を通じて、根強く関心をもち続けていたため、今年度も継続して取り入れた。国旗に使われている色や形（丸や星など）の意味や由来を調べることで、より興味関心を深め、活動を展開していくことができたらと考えた。

また、複数年にわたる探究活動の集大成として、グループごとに好きな国・国旗を決めて国旗を作ったり、その良さを人前で伝え共有することで、活動の締めくくりになればと考えたため。

## 2. 活動スケジュール

令和7年6月17日～7月16日、令和8年1月21日～3月21日

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①国旗パンフレット・書籍
- ③国旗の塗り絵、色鉛筆
- ④ホワイトボード
- ⑤世界地図パズル
- ⑥模造紙、絵の具

…等

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

①知っている国旗探し、国旗に多く使われている色探し、似ている国旗探し

②色の由来や国のシンボルを知る

- ・複数のデザインを用意しておき、好きな色・模様を付けオリジナルの国旗を作成。

(自分の国を作ることを想定して自分の好きなデザインを行う)

- ・席替えをした際、グループ名を国名にし、その国旗を作ってみる。
- ・卒園式で好きな国の国旗について発表してみる。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

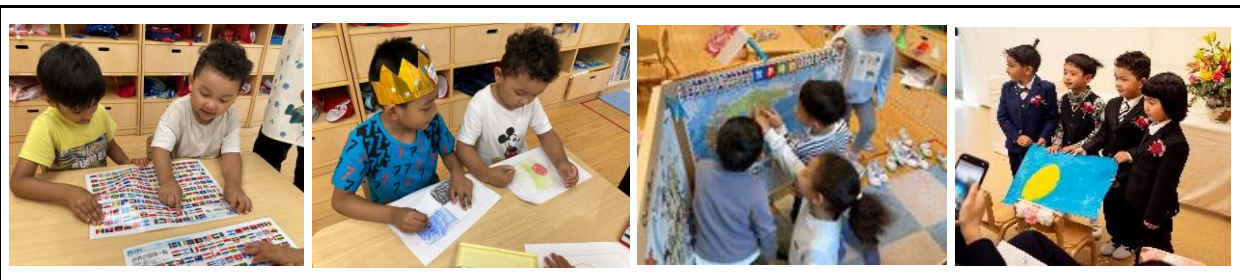
・昨年度からの取り組みが根付いていることを実感した年度の始まりであった。自発的に国旗図鑑や世界地図のパズルを楽しみ、国旗と国名が一致している。その国の有名な物を発言する場面もあった。

・色違い（例：日本とバングラデシュ）や多く使われている形（星）に気付き、「星＝統一・自由」などの意味は難しいが、動物や自然が使われている意味はその国に関連することだという気づきも得ていた。

・国旗作成自体は楽しんでいたが、自分にルーツのある国への意識が強いようで、既に存在する国旗を作る姿が見られた。また、オリジナルの国旗を作るという、自由製作が苦手な子どももあり（経験不足だったと思うが）、用意した国旗を好きな色で塗るだけの子どもが多かったかもしれない。オリジナルの国を作る目的ではあったが、一人ひとりの活動を尊重するため否定的な声掛けはせず、見守った。

・グループ内で好きな国・国旗を考えてみる機会を作ると、国旗の本を広げて「青色が入っている国旗がいい」「カッコいい絵が入っているのがいい」など、国を国旗の柄や色合いで認識している様子があった。グループの中で意見が割れることもあったが、お互いの意見を聞いたり、尊重したりする様子もあり、国が決定すると引きずることもなく切り替えて何色をだれが塗るのかの役割を決めて進めていた。

・卒園式の発表では緊張していたがその国に対するそれぞれの思いや考えを（フランスでフランスパンを食べたい、パラオの黄色い丸は月を表している・綺麗な海に入りたい、等）を発表した。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・想像以上に国旗と国名が一致している。
- ・同じマークが入っている国旗探しをしていた。
- ・自分に関連する国の由来を知りたがっていた。
- ・自分の好きな物（キャラクターや食べ物・色・マーク等）を国旗に関連付けたり、空想することの面白さを感じられたら、と思って計画したが応用して作成するのは難しいように感じた。（※子どもにわかりやすい説明をするのもやや難しい。）
- ・好きな色や形をあらかじめ準備しておき、貼り合わせるやり方の方が今の子どもたちには適していたかもしれない。
- ・個人ではなく、グループごとに話を進めるように促すと、意見が割れた時に保育者の介入が必要かと思っただが、予想に反して「じゃあ〇〇にしよう」と意見をまとめる児がいたり、「じゃあいいよ」と友だちの意見に合わせたりすることができていたところが意外だった。国旗・国をテーマにすると子どもたち自身も意欲的に取り組み、また「大きい国旗を絵具で塗ってつくろう」と製作遊びの様子を取り入れたことが良かったのだろうと思う。発表に対しても意欲的で、照れながらも嬉しそうに自分が発言するタイミングを把握したり、グループ内で声掛けして発表しようとしたり、一生懸命本番に取り組む様子が印象的だった。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1468
施設名	おおつかほうゆう保育園
施設所在地	東京都豊島区北大塚1-21-13
法人名	社会福祉法人 豊友会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「世界を知ろう ～楽器～」

<テーマの設定理由>

もともと「踊ること」「歌うこと」が好きな子が多く、音楽に親しんでいた。世界にはいろいろな楽器があることに気づき、話題にのぼることも多かったため、取り入れ手見ることとした。

## 2. 活動スケジュール

2025/7/24、R7.9.3～9.11、R7.9.12

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①CD『世界のうたとあそぼう！』
- ②タブレット、図鑑
- ③廃材 \*手作り楽器
- ④民音音楽博物館訪問
- ⑤各種楽器(和太鼓・ウッドブロック・マラカス・トライアングル・タンバリン)

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ①ラテンアメリカの「ペリキト」を聴き、一緒に踊る。  
イギリス発祥の歌遊び「ロンドン橋」を体験する。※英語でも挑戦
- ②みんなおんキッズHP から、世界の楽器を見て、どんな音がするのか聴いてみる。
- ③音の鳴る玩具を作ってみる。存在する楽器を元に作るというよりかは、切ったり貼ったりこすり合わせたり、何らかの音が鳴る玩具を自由に作ることで音を楽しむ活動を実施。
- ④博物館内を見学。楽器の体験。施設職員の生演奏を聴く。
- ⑤楽器の名前・音・発祥国について、子ども達が予想してから、名前を伝えたり音を聞いたりする。鳴らし方など扱い方を伝え、自由に触れて、鳴らしてみる時間を設けた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ①ポップな曲調の遊び歌（ラテンアメリカのプリキト、イギリスのロンドン橋）は子どもたちの好みに合っていたようで意欲的に取り組んでいた。
- ②国旗を学んだことで、どこの国の楽器なのか興味を持っていた。クラスメイトに関連する国の楽器ではより反応が良く、どんな形・音であれ好む傾向にあった。プロジェクターで投影しながら民族楽器を紹介すると、身近な音（口笛や指ぱっちん、ディズニーやお祭りの音など）に例えていた。この年代の子どもにも既に好みがあることもわかった。また、プロジェクターで投影された民族楽器の特徴をよく捉え、色や形状など気付いたことを自分の言葉で上手く伝えた。  
事前にホームページからどんな楽器が置いてあるのか下調べすることで、発祥の地や楽器の音に興味を持つ姿が見られる。楽器の扱いについては、力加減が分からない様子が見られたが、展示の仕方が分かりやすく（楽器に合うバチを紐で付ける、同じ鳴らし方の楽器を集めるなど）だったので、どの子どもも積極的に体験していた。身近な音に例えたり、楽器を鳴らしてみても感じたことを保育者や友だちに共有していた。弦楽器や管楽器への興味もあったようだが、打楽器メインだったので体験できないことを少し残念そうにしている児もいた。自動演奏楽器（オルゴール、蓄音機など）や古典ピアノの演奏にも参加した。演奏を聴く活動は初めてなので飽きてしまう姿を想像してたが、音に合わせて体を揺らしたり拍手をしたり、友だちや保育者と顔を見合わせる場面もあり、空間を楽しむことが出来た様子。  
楽器の名前や音については知っている物もあれば「わからない」と答えを待つ姿もあった。「ドンドンって音じゃない？」など、擬音語を使って音の予想を言葉にする児もいた。また、実際に触れてみると、トライアングルやハンドベルなどがしばらく振動し続けることに気付き「この楽器の音が好き」と言いながら、テーブルに置いたまま・宙に浮かせて・叩く場所を変えて等、気に入った楽器を色々な方法で鳴らして確かめる様子があった。保育者のピアノに合わせた合奏では、リズムをしっかりと取りながら奏でようとし、また1回終わると「次は太鼓やりたい」「トライアングルに変えたい」など、異なる楽器を使って演奏したい様子があったので、時間が許す限り繰り返し行って楽しんだ。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

身体を動かすこと、音楽に触れることが好きなクラスなので、この活動は今までの一番反応が良かったように感じる。今後も世界の遊び歌に触れていきたい。ロンドン橋に関しては、歌を知っている子が「英語で聞きたい」というので英語バージョンを流して遊んでみた。今後は子ども達の知っている歌が実は、海外で作られているものだと伝えるたり日本との違いを見つけたりするなどの活動に繋げていくのも楽しめるのではないかと感じた。

「この音はどんな音?」「聞きたい」と意欲的な姿が見られ、約1時間飽きずに楽しめたことから、楽器への興味があることが分かった。実際に見たり鳴らしたりできる場に行くことでより活動が深まると思ったので「民音音楽博物館」「和太鼓体験」に参加したい。マグーから貰った楽器を積極的に使っている姿が見受けられるので、他の民族楽器も購入してみたい。

事前にどのような楽器があるのか・どの国の楽器があるのかをホームページを見ながら確認していたので、「触ることが出来る」期待感をよきもって向かうことが出来たのが印象的だった。実際に触ってみる期間を逃さずに遠足に迎えたのが良かったと思う。同じ種類の楽器でも、デザインや音が異なることや、友だちと一緒に演奏することの楽しさに気付いていたので、園に帰ってからまた楽器に触れたり合奏したりする機会を設けていきたいと思う。

先日の博物館では、楽器の音の違いに気付く・楽器ごとの鳴らし方の違いを楽しむ姿が多く見られたが、今回は一つ一つの楽器に注目する時間を設けられたことで、トライアングルの振動や一つの楽器でも鳴らし方によって音が変わることなどへの気付きを引き出したのはいい機会だったと感じた。また、お気に入りの楽器を見つけたり、色々な楽器で好きな歌に合わせて音を鳴らしたいという意欲へ繋げたりすることができたのは良かった。発祥国の違いについて活動時間中に意識する言動はなかったが、世界についての絵本やカードゲームなどに載っている楽器の写真・絵に対して反応したり「ウクレレが描いてある」など友だち同士で教え合う様子があったり、注目するきっかけに繋がったように感じる。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1468
施設名	おおつかほうゆう保育園
施設所在地	東京都豊島区北大塚1-21-13
法人名	社会福祉法人 豊友会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「世界を知ろう ～スポーツ～」

<テーマの設定理由>

「国旗を作ってみよう」で色々な国旗に触れた際、「アルゼンチンはサッカーのメッシの国だね」などの子ども同士のやり取りがあった。運動遊びが好きなクラスでもあるため、国ごとのスポーツを知ることにより興味を広げられると感じたため。

## 2. 活動スケジュール

2026/1/5（月）～2/5（木）

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①サッカーゴール・ボールを公園のボール遊びエリアへ持っていく。
- ②相撲土俵マット・ダーカウを使用して室内遊びに取り入れる。
- ③ダーカウや縄跳びを公園で使用する。

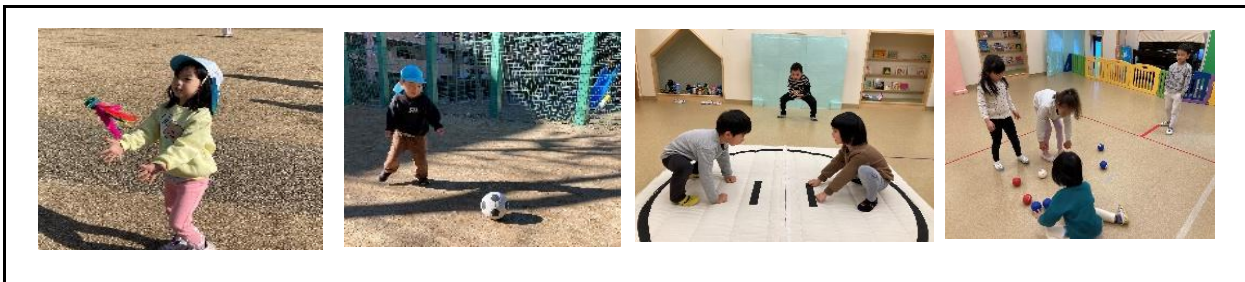
#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ①サッカーゴールを設置し、ルールや遊び方を知っているか確認してみる。一緒に自由にシュートしたり、チームやペアに分かれてゴールしてみる。
- ②相撲の取り組み開始までの流れを一緒にやってみたり、試合の動画を見て違いを感じたりする。
- ③道具を使用して難しさを感じながら、出来る面白さを味わう。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「スポーツ」というものが何かを考えるとところから始まったが、ボールの種類の違いやどんな場所で行うことがスポーツの違いに繋がっていることは何となく理解しているようだった（サッカーは四角いグラウンドでボールを蹴る、相撲は土俵で行う等）。実際に行ってみると、サッカーはシュートすることに面白さを感じ、ペアやチームを変えながら遊ぶ姿がある。また、相撲では礼儀・作法を重んじることや儀式・所作など細かく決まっていることを動画で見ながら伝えると、子どもたち自身が流れを真似ようと「ここは挨拶だよ！」と声掛けし合ったり、四股踏みや蹲踞の姿勢を行ったり、審判の掛け声・動きを真似しながら応援する姿があった。ポッチャは使用したことがある子どもを中心にルールを確認しながら、コントロールを考えながら投げる事が出来、友だちを応援したり上手に投げられると「いいね！」などポジティブな声掛けが行き交った。ダーカウや縄跳びは正式なやり方で遊んでみようとするが難しいことも多かったことから、手で投げて立てる遊びや大縄跳びのように複数人で遊ぶなど、自分たちでアレンジする様子があった。また、ダーカウの色合いや手触り、デザインを観察して面白がる様子もあった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

スポーツの名前や由来・発祥国など、知らないものが多かったが「あの茶色のボールで上に入れるやつ（バスケットボール）」「黒と白のボール」など、子どもたちなりにイメージや違いは何となくあるようで、それを言語化して伝える難しさや伝わった面白さを感じる姿が微笑ましかった。やってみることで遊び化し、子どもたちがどんどん「もう一回やろう」と進めていく姿があったが、相撲のように勝敗を決めるだけでなく礼儀・作法などの形を一生懸命真似しようとしたり意味を知ろうとしたりする姿があったのは意外だったので、保育者も一緒に図鑑を開いて知識を広げていけたのはよい機会だった。